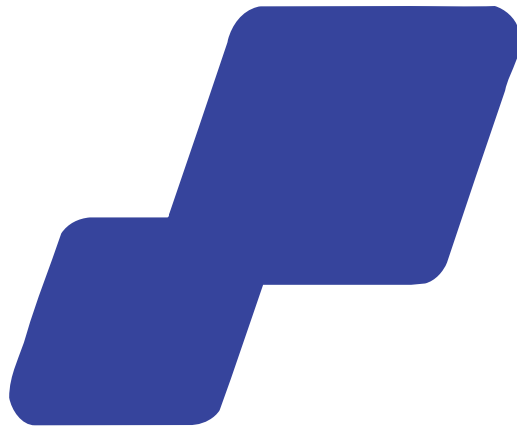


滋賀大学大学院  
教育学研究科（修士課程）の案内

2012



Graduate School of Education  
**SHIGA UNIVERSITY**

# 目 次

1. 教育学研究科の設置目的と趣旨	1 頁
2. 教育学研究科のアドミッションポリシー	1 頁
3. 教育学研究科の沿革	1 頁
4. 教育学研究科の概要	2 頁
(1) 学校教育専攻	
(2) 障害児教育専攻	
(3) 教科教育専攻	
5. 教育学研究科の特色	3 頁
(1) 現職教員の受け入れ	
(2) 昼夜間開講制	
(3) 長期履修学生制度	
(4) 専修免許状の取得	
(5) 教員一種免許状取得のための学部授業聴講料免除制度	
(6) 外国人留学生に対する授業料免除制度「優先枠」の創設	
6. 教育学研究科における教育・研究の概要	5 頁
(1) 学校教育専攻	
(2) 障害児教育専攻	
(3) 教科教育専攻	
(4) 教員スタッフ一覧	
(5) 最近の修士論文題目一覧	
7. 教育学研究科における教育方法等	17 頁
(1) 教育, 研究指導	
(2) 授業	
(3) 修了の要件	
(4) 修業年限	
(5) 学位の授与	
8. 大学院説明会	18 頁
9. その他	18 頁
(1) 教育学研究科に関する問い合わせ先及び学生募集要項請求先	
(2) 入試情報ホームページ	
(3) キャンパスの案内	

# 滋賀大学大学院教育学研究科（修士課程）

## 1. 教育学研究科の設置目的と趣旨

本学大学院教育学研究科は、学部における教養的並びに専門的教育の基礎の上に、時代の進展に対応できる教員としての専門的学識及び実践的能力を育成すること、並びに現職教員の専門的機能のいっそうの向上を図ることを目的とし、教育現場や地域社会に開かれた大学院として、平成3年4月に設置されました。以来今日まで、一貫して滋賀県を中心に学校教育を担う人材を輩出してきました。常に地域の教育の中核的機関として、附属学校園はもとより地域の学校園との連携のもとに、実践的指導力の養成に力を注いでいます。ここ数年来は、学校教育に加えて、情報教育や環境教育といった現代的な課題に対する教育研究を推進させながら、高度に専門的な教育的素養を備えた地域人の育成を視野に入れ、教育研究体制のいっそうの充実をめざしています。

我が国の学校教育は大きな転換期を迎えていることから、学校及び教師への期待はこれまで以上に大きくなっており、学校を取り巻く状況の様々な変化に対応し、よりよい教育を自ら作り出していこうとする教育人の育成が急務となっています。そうした教育人の育成を実現するために、本研究科では、少人数指導を原則とした特論・演習・課題研究等において、きめの細かい指導を心がけています。また、これからの教師にはますます必要となる広い視野を育むために、高度に専門的であり、かつ学際的なディスカッションの場を教育研究の様々な場面に設け、我が国の21世紀を担う教育人の育成に力を入れています。

## 2. 教育学研究科のアドミッションポリシー

教育に関する社会的要請に応えるためには、学校、家庭、地域社会などとの緊密な連携のもとで、教育問題に対する幅広い情報を的確に受け止めることが求められます。その上で、複雑な要因で構成されている諸問題を多角的に分析・考察し、抽出された知見を教育実践の場に応用・展開させていくという総合的な力が要求されます。

本研究科は、根気を必要とする研究の道程をいとわず、自己研鑽への意欲をもつ人材を求めており、また修了後も研究の成果を地域の教育に還元できる熱意のある人材を求めています。学部卒業者はもとより、現職教員をはじめとして様々な領域で地域教育に関わっている指導者や、高度な知識や技能を有して専門分野で活躍している社会人からも広く人材を求めています。

## 3. 教育学研究科の沿革

平成3年（1991）4月 滋賀大学大学院教育学研究科の設置

- ・学校教育専攻学校教育専修
- ・障害児教育専攻障害児教育専修
- ・教科教育専攻

国語教育専修・社会科教育専修・理科教育専修・

美術教育専修・英語教育専修

平成5年（1993）4月 教科教育専攻の整備（全専修完成）

数学教育専修・音楽教育専修・保健体育専修・

技術教育専修・家政教育専修

平成13年（2001）4月 学校教育専攻の整備と学校教育専攻及び障害児教育専攻の入学

定員増、学校教育専攻に情報教育専修と環境教育専修を設置

昼夜間開講制を実施

平成14年（2002）4月 教科教育専攻の入学定員増

## 4. 教育学研究科の概要

### (1) 学校教育専攻

学校教育専攻は、教育の基礎と方法、発達と学習を中心とした分野、環境教育を中心とした分野、情報教育を中心とした分野を設けています。

### (2) 障害児教育専攻

障害児教育専攻は、教育実践論を中心とした分野（教育方法学、障害児教育学）、神経心理学と発達臨床を中心とした分野（障害児心理学）及び障害児医学を中心とした分野（障害児生理学、障害児病理学）を設けています。

### (3) 教科教育専攻

教科教育専攻は、それぞれの専門分野に教科教育学、教材開発及び授業研究を置き、教科専門領域の実践的理論的な教育研究を体系化できるようにしています。

専攻	専修	分野	入学定員
学校教育	学校教育	教育学（教育史）、学校経営、教育社会学、教育方法学、教育心理学、発達心理学、学校カウンセリング、幼児教育	18名
	環境教育	環境教育総論、環境教育方法論、湖沼・地域環境教育論	
	情報教育	情報教育基礎論、情報教育方法論、情報教育応用論、教科情報教育方法論	
障害児教育	障害児教育	障害児教育、障害児心理、障害児生理	5名
教科教育	国語教育	国語科教育、国語学、国文学、漢文学、書道（書写を含む）	42名
	社会科教育	社会科教育、歴史、地理、法律、社会学、政治学、経済学、倫理・哲学	
	数学教育	数学科教育、代数学、幾何学、解析学・応用数学	
	理科教育	理科教育、物理、化学、生物、地学	
	音楽教育	音楽科教育、声楽、器楽、作曲・指揮法、音楽学	
	美術教育	美術科教育、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史	
	保健体育	保健体育科教育、体育学、運動学、学校保健	
	技術教育	技術科教育、機械、電気、木材加工	
	家政教育	家庭科教育、食物学、被服学、住居学、保育学、家政一般	
	英語教育	英語科教育、英語学、英米文学、外国語・外国文学	
合 計			65名

## 5. 教育学研究科の特色

### (1) 現職教員の受け入れ

・大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を適用し、以下の3つの形態で現職教員等を積極的に受け入れています。(詳細は17頁)

- ① 現職派遣教員
- ② 大学院修学休業制度による派遣教員
- ③ 派遣教員以外の現職教員，社会人等

・現職教員等に対しては特別入学試験制度を採用しています。

現職教員等は特別入試での受験ができます。また，一般入試での受験の場合は，外国語試験を研究論文・報告の概要及び研究計画等をもって代替できます。

### (2) 昼夜間開講制

・派遣教員以外の現職教員，社会人等は，修学年限の全期間を通じて，平日の第6時限（18時00分～19時30分）と第7時限（19時40分～21時10分）や土曜日，土・日曜日または夏季・冬季休業期間中の集中講義を受講して必要な単位を修得することができます。

### (3) 長期履修学生制度

・長期履修学生制度は，職業を有している等のために標準の修業年限で修了することが困難な学生を対象としています。事情に応じて標準の修業年限（2年）を超えて一定の期間（3年または4年）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修学生として認められた場合の授業料は，2年間（標準の修業年限）分の授業料総額を，あらかじめ認められた一定の修業年限で除した額をそれぞれの年に支払うこととなります。

### (4) 専修免許状の取得

・所要の基礎資格（幼稚園，小学校，中学校，高等学校および特別支援学校教諭の一種免許状）を有する者は，教育職員免許法に定める所定の単位を修得することにより，それぞれ専攻・専修に応じた専修免許状を取得できます。

専攻	専修	専修免許状の種類及び教科
学校教育専攻	学校教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭専修免許状</li> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，職業指導，英語）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，家庭，情報，職業指導，英語）</li> </ul>
	環境教育専修 情報教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭専修免許状</li> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，職業指導，英語）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，家庭，情報，職業指導，英語）</li> </ul>
障害児教育専攻	障害児教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校教諭専修免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）</li> </ul>

教科教育専攻	国語教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭専修免許状</li> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状（国語）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（国語，書道）</li> </ul>
	社会科教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状（社会）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（地理歴史，公民）</li> </ul>
	数学教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭専修免許状</li> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状（数学）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（数学）</li> </ul>
	理科教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状（理科）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（理科）</li> </ul>
	音楽教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭専修免許状</li> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状（音楽）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（音楽）</li> </ul>
	美術教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭専修免許状</li> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状（美術）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（美術，工芸）</li> </ul>
	保健体育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭専修免許状</li> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状（保健体育）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（保健体育）</li> </ul>
	技術教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教諭専修免許状（技術）</li> </ul>
	家政教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状（家庭）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（家庭）</li> </ul>
	英語教育専修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教諭専修免許状（英語）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（英語）</li> </ul>

#### (5) 教員一種免許状取得のための学部授業聴講料免除制度

- ・大学院教育学研究科に在学しながら，学部の授業科目を聴講し，教育一種免許状を取得するために必要な科目を履修する場合に無料となります（一部の科目で履修が制限されている場合があります。また1年間に履修できる単位数にも制限がありますので，教員免許状の取得を保証するものではありません）。この聴講については，所定の手続のうえ認められますので，詳細は本研究科規程の『大学院教育学研究科生の教育職員免許状を取得目的とした学部聴講の取扱いについて』によることとなります。

#### (6) 外国人留学生に対する授業料免除制度「優先枠」の創設

- ・平成20年度入学生から，従来からの授業料免除制度に加え，外国人留学生を対象とした授業料の全額免除優先枠を創設いたしました。この制度は，外国人留学生の中で，入学試験時の成績優秀者を対象とするものです。

## 6. 教育学研究科における教育・研究の概要

### (1) 学校教育専攻

#### ① 学校教育専修

- ア. 生涯学習体系の中での学校教育を探究し、教育の基礎的諸科学の研究能力を養います。
- イ. 学校における教授学習過程や児童生徒の人間関係にみられる心理学的機序を解明します。
- ウ. 人格形成における親子関係、幼児期の初期経験に関する専門的知識を基礎として、学校集団への適応にかかわる生徒理解とカウンセリングの方法を習得します。

#### ② 環境教育専修

- ア. 環境教育の指導者として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。
- イ. 学校教育・生涯学習における環境教育の内容・方法の理論と実践に関する専門的知識を修得し、カリキュラムや教材の開発、地域環境学習プログラムを設計できる力量をもった指導者の養成をめざします。
- ウ. 学部卒業者を対象として、学校教育・社会教育における環境教育の内容・方法の理論と実践の専門的知識を修得させ、滋賀県の地域環境教育に関する学習プログラムを設計できる力量ある指導者の養成をめざします。

#### ③ 情報教育専修

- ア. 高度情報通信社会に主体的に対応できるための情報教育を担える専門教員を養います。
- イ. 情報に関する科学的な考え方、見方を養うことにより的確な情報教育、また教育の情報化を實踐できる技能と能力を持った教員を養成します。
- ウ. 情報教育の理論と実践についての深い見識を持った実践者を育成します。

### (2) 障害児教育専攻

#### ① 障害児教育専修

- ア. 障害児教育全般に関する諸問題を総合的に解決するための資質と能力を養います。
- イ. 附属特別支援学校と協力し、教育実践の分析・理論的再構成を行う能力を養います。
- ウ. 障害児の身体的・心理的諸要因に関する専門的知識と研究方法論を修得し、障害児の治療教育についての実践と研究の能力を養います。

### (3) 教科教育専攻

#### ① 国語教育専修

- ア. 国語教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。
- イ. 国語学、国文学、漢文学及び書道の各領域における高度の専門的知識及び研究法について国語教育の立場から総合的に把握させることをめざします。
- ウ. 地域的特色を研究し、それを国語教育に有効に活かすための教材開発を進めます。

#### ② 社会科教育専修

- ア. 社会科教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。
- イ. 社会科の教科内容に関する学問研究の成果と方法を学ばせるとともに、人間・社会・文化への深い洞察に導き、教育について本源的に考究させます。
- ウ. 多彩な歴史と豊富な文化財を有する県であるという条件を活用して、地域社会研究を取り入れます。地域に関する認識を深め、教材を開発するとともに、地域に根ざす社会科教育の実践に資することをめざします。

#### ③ 数学教育専修

- ア. 算数・数学の教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。
- イ. 教材開発研究や授業研究等の演習活動を通して、学校数学についての理論と実践の統合をめざします。

ウ．代数学，幾何学，解析学の各領域の専門的知識と研究方法を学ぶことにより，研究・教育の能力向上をめざします。

④ 理科教育専修

ア．理科の指導に必要な教育実践能力と研究能力の向上を図ります。特に身近な事物や現象と科学の基本概念とを関連づけることに習熟し，自主的に教材を開発・編成し，新しい理科の授業をデザインできる能力の向上を図ります。

イ．物理学，化学，生物学及び地学の各領域における基本的概念の理解を深めるとともに，宇宙の起源から生物の進化に至る総合的自然観の形成をめざします。

⑤ 音楽教育専修

ア．音楽教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。

イ．器楽，声楽，作曲，音楽学の各領域における専門的技能や知識を深めることにより，芸術文化への深い洞察に導き，総合的な研究・教育能力の向上を図ります。

ウ．初等・中等教育における音楽教育の内容や方法について深く学ぶことにより，教材開発や授業研究などの実践的能力の向上を図り，学校における芸術教育に資することをめざします。

⑥ 美術教育専修

ア．美術教育の内容を教育の現代的課題の中で捉え直すとともに，美術教師として必要な教育実践研究能力の向上を図ります。

イ．美術教育の根源について考察し，人間の尊厳と芸術文化への洞察を深めます。

ウ．美術教育の立場から，表現の諸領域及び美術理論・美術史における高度な専門的知識と方法論を総合的に把握することをめざします。

⑦ 保健体育専修

ア．学校体育の諸問題を総合的に究明し，現代社会に対応する保健体育科教育の実践に資することをめざします。

イ．初等体育・中等保健体育科教育の内容を深めるとともに，関連する体育・スポーツ・健康諸科学の専門知識と研究方法を学び，保健体育教員としての教育実践・研究能力の向上を図ります。

⑧ 技術教育専修

ア．技術教育の教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。

イ．学校教育における技術教育の内容を深め，総合的な技術観の形成に基づく教材開発研究能力を養成します。

ウ．情報化社会の進展にみられるような科学技術の変革に対応できる教員としての能力・資質を養成します。

⑨ 家政教育専修

ア．家庭科教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。

イ．食物学，被服学，住居学及び家庭経営学分野における専門的知識と研究方法を学ぶことにより，研究・教育能力の向上を図ります。

ウ．専門分野の理論と地域の特性を活かした新しい教材開発研究を行います。

⑩ 英語教育専修

ア．英語教員として必要な言語能力の向上を図り，英語教育に関する総合的研究能力を養います。

イ．現場における英語教育の諸問題を理論的に究明し，教育実践力の向上を目指します。

ウ．英語学，英米文学の各領域における専門的知識と研究方法を学ぶことにより，研究・教育の能力を養います。

#### (4) 教員スタッフ一覧 (2011年4月現在)

##### ■ 学校教育専修

井上 毅 教授	知識の構造とその処理過程に関する認知心理学的研究
喜名 信之 教授	近代教育思想の歴史的研究
紅林 伸幸 教授	教育社会学 授業コミュニケーションにおける生徒と教師の社会化に関する研究
兒玉 典子 教授	胎児の記憶と出生後の母子愛着形成
近藤 文良 教授	人間が熟達することによる認知過程(理解や注意)の変化やパーソナリティ(性格や動機づけ)の変化を調べる研究
菅 眞佐子 教授	乳幼児期の子どもの概念や思考の発達, 発達の社会的構成
藤田 弘之 教授	比較教育政策の研究(特にイギリスとの比較を中心として)
若松 養亮 教授	青年期の進路意思決定過程の解明と支援
渡部 雅之 教授	視点取得を中心とする認知発達研究
奥田 援史 准教授	「からだ」と「こころ」の発達に関する研究, 早期教育に関する研究
田中 裕喜 准教授	「主題-探求-表現」型の教育・保育実践に関する人間学的研究
堀江 伸 准教授	(1) 授業とコミュニケーション過程の研究 (2) 教師の「実践的思考」とその形成に関する研究
三輪貴美枝 准教授	ドイツを中心とした、「教育」概念の成立と展開についての研究

##### ■ 環境教育専修

秋山 元秀 教授	東アジア・東南アジアの地域研究, 歴史地理研究
遠藤 修一 教授	湖沼・河川・気象などを対象とした地球環境学および環境教育教材研究
久保 加織 教授	食生活と環境および食育に関する研究, 食品成分と嗜好に関する研究
早川 洋行 教授	社会学説・社会学理論, 地域行政・地域政策・地域生活に関わる諸問題
堀越 昌子 教授	食と環境に関する研究, アジアの伝統食・滋賀の食文化に関する研究, 食教育に関する研究など
松田 隆典 教授	産業化と都市化の地域環境論的研究とその教材開発

與倉 弘子 教授	繊維製品の性能評価, 繊維リサイクルに関する研究, 衣生活と環境教育に関する教材開発
市川 智史 准教授	環境教育の理念, 目的・目標論, カリキュラム論および参加体験型手法を主とした環境教育プログラムの開発

#### ■ 情報教育専修

齋藤 浩文 教授	論理学・数学の哲学および言語哲学の諸問題の研究
服部 昭尚 教授	観察に基づいた情報収集と統計解析, 生息地の構造解析
穂積 俊輔 教授	数値シミュレーションによる銀河の形成と進化の研究
松原 伸一 教授	情報教育における教育内容・教育方法に関する情報学的研究
水上 善博 教授	コンピュータシミュレーションによる現象の解析
宮田 仁 教授	小・中・高等学校における情報教育のカリキュラム開発及び Web 教材開発に関する研究
岩井 憲一 准教授	教育活動を支援する知的システムに関する研究
右田 正夫 准教授	ロボットと動物による行動獲得に関する研究

#### ■ 障害児教育専修

江原 寛昭 教授	障害児病理, 障害児医療, 発達障害の発生の遺伝メカニズム等の基礎的研究と疫学的研究
窪島 務 教授	学習障害を中心に発達障害児の読み・書き・計算障害のアセスメント, 診断, 指導法の理論及び実践的研究, 特別ニーズ教育 (special needs education) の理論及び国際比較
黒田 吉孝 教授	子どもの発達の障害, 例えば, 知的な障害とか, 自閉症とかの障害についての理解を進めるための基礎的な研究
近藤 文里 教授	軽度発達障害児, および頭部損傷後遺症児に関する心理学的理解と教育的支援
白石恵理子 教授	(1) 障害児・者のライフサイクルと発達保障実践 (2) 乳幼児, 障害児の発達診断・発達相談

#### ■ 国語教育専修

亀山 朗 教授	中国文学史 漢・魏・晋・南北朝期の詩歌文学の歴史的展開を理論づける研究
中村 史朗 教授	制作 (漢字を中心とする), 中国書道史
吉川 栄治 教授	古今集を中心とした平安時代和歌史の研究

牧戸 章 准教授	「ことばの学び」の生成に関する研究
松丸 真大 准教授	言葉の習得や変化に関する研究
天野知幸特任准教授	戦後文学を中心とする日本近現代文学・文化の研究

■ 社会科教育専修

秋山 元秀 教授	東アジア・東南アジアの地域研究, 歴史地理研究
安彦 一恵 教授	現代倫理学 (特に正義論・正当化論・価値論・リベラリズム論・相対主義論・風景論・歴史論・現代社会論・自由意志等)
宇佐見隆之 教授	日本史学 (鎌倉時代から江戸時代にかけての社会・経済の研究)
加納 正雄 教授	(1) 経済思想 (2) 小中高等学校の経済教育
岸本 実 教授	(1) 社会科における概念や探究方法とその教育評価 (2) 米国の社会科カリキュラム (3) 環境教育, 市民教育, 開発教育
木全 清博 教授	戦前・戦後の日本の社会認識教育, アジア・オセアニア諸国の社会科教育・歴史教育, 滋賀県教育史
齋藤 浩文 教授	現代哲学 (特に言語哲学, 数学・論理学の哲学)
谷口 健治 教授	近代ドイツ史
早川 洋行 教授	社会学説・社会学理論, 地域行政・地域政策・地域生活に関わる諸問題
松田 隆典 教授	産業化と都市化に関する社会・経済地理学的研究
馬場 義弘 准教授	(1) 日本政治史 (近現代) (2) 滋賀県の近現代史
渡邊 暁彦 准教授	(1) 統治システムの比較憲法学的研究 (2) 学校教育と法

■ 数学教育専修

神 直人 教授	2枚の円い紙を何ヶ所も同じ所で切りそこで互い違いに貼り合せると複雑なものができる, それが研究対象
杉江 徹 教授	アフィン代数多様体の分類
鈴木 宏昌 教授	非線形現象の解析
高澤 茂樹 教授	数学教育における教師と子どもの認識に関わる研究
大久保克己特任教授	フィンスラー幾何学とその応用

橋本 是浩特任教授	Van Hiele の学習水準理論
-----------	-------------------

■ 理科教育専修

糸乗 前 教授	細胞表面の構成成分（複合糖脂質）の構造解析及び生化学的機能解析
遠藤 修一 教授	(1) 琵琶湖における湖水の流動・水質変化・気象特性に関する研究 (2) 湖沼・河川・気象などを対象とした地球環境学および環境教育教材研究
神山 保 教授	(1) 複雑液体におけるパターン形成とダイナミクスに関する研究 (2) 複雑ネットワーク解析の応用に関する研究
鈴木真理子 教授	(1) 科学技術コミュニケーションに関する研究 (2) 科学の学びにおける ICT 活用に関する研究 (3) 科学の学びにおける Professional Development に関する研究
中野 聰志 教授	長石と花崗岩類の研究／琵琶湖地域自然史の解明／減災教育研究
原 博一 教授	天然水中の溶存化学物質の形態別分析法に関する研究
古橋 潔 教授	(1) 下等真核生物の環境ストレスに応答するメカニズムの解析 (2) 動植物の代謝関連酵素の生化学的研究
大山 真満 准教授	太陽面現象や構造に関する研究
東田 充弘 准教授	学習者における科学概念の発達と自然科学体系の関係
石上 三浩特任教授	(1) 真正粘菌変形体の収縮力発生装置とその調節機構 (2) 琵琶湖プランクトンなど生物領域の教材開発

■ 音楽教育専修

浅井 芳子 教授	ピアノを中心とした楽曲の解釈と演奏法・指導法について
犬伏 純子 教授	ピアノ作品の解釈とその演奏法，指導法について
杉江 淑子 教授	(1) 学校および学校外の音楽教育の社会学的研究 (2) 音楽科教育の教材内容論
若林 千春 教授	神話としての儀式空間における音楽作品の創作・・・「人間の内なる自然」と「人工の夢想あるいは理念の幻影」との狭間
林 睦 准教授	(1) 地域と連携した音楽教育 (2) 応用音楽学
木川田 澄特任教授	(1) オペラに於ける発声法，歌唱法 (2) ドイツ歌曲の歌唱法と解釈

■ 美術教育専修

大嶋 彰 教授	絵画制作及び近代・現代美術の理論的考察を通じた絵画教育の研究
---------	--------------------------------

谷田 博幸 教授	イギリスを中心とする西欧近代美術史
新関 伸也 教授	美術教育におけるデザイン及び鑑賞の実践的研究
橘 美知子 准教授	創造的意識体験を促す鑑賞制作教材の研究
藤田 昌宏 准教授	粘土等を用いた具象的な立体表現を中心とする現代美術及びアートを通じたワークショップ
世ノ一善生 准教授	モダンタイポグラフィを中心としたグラフィックデザイン
隼瀬 大輔特任講師	木・漆による工芸制作

#### ■ 保健体育専修

澤田 和明 教授	生涯スポーツにつなぐ教科体育の効果的な学習指導のあり方に関する研究
辻 延浩 教授	体育（保健体育）科における課題解決的学習の授業づくりと学習指導・評価に関する研究
平井 肇 教授	スポーツに関わって現代社会で見られる現象や問題の分析と検討
三浦 幹夫 教授	スポーツ運動論：スポーツ運動の構造・意味およびその形成過程・変容についての探求
村山 勤治 教授	学校体育における武道（剣道）教育に関する研究
江崎和希特任准教授	骨格筋のエネルギー代謝に関する研究

#### ■ 技術教育専修

磯西 和夫 教授	合金粉末の加圧焼結における緻密化挙動と、新しい金属材料の合成およびその特性について
千葉 訓司 教授	高分子流体および粒子懸濁液の流動過程の解析
松原 伸一 教授	教科教育における内容論および方法論に関する研究
水上 善博 教授	コンピュータシミュレーションによる物質の性質の予測に関する研究
木島 温夫特任教授	地域に根ざした栽培技術教育ならびに植物と人間の関係に関する研究

#### ■ 家政教育専修

久保 加織 教授	食品の栄養価・嗜好性・機能性に関する研究，食教育に関する研究など
堀越 昌子 教授	食品の特性と栄養価に関する研究，滋賀県の伝統食や食文化に関する研究，食教育に関する研究など

矢野 由起 教授	家庭科の学習指導内容や教育課程に関する研究
與倉 弘子 教授	最適な被服の設計のための素材性能の評価に関する研究, 衣生活教育に関する研究
田中 宏子 准教授	家庭科学習指導内容の生活実践に関する研究
小谷 良子 特任教授	個人・家庭・地域・社会生活者としての主体形成や生活力育成に関する研究
山崎古都子 特任教授	住生活・減災教育に関する研究

#### ■ 英語教育専修

岩上はる子 教授	イギリス文学, 翻訳研究
板東美智子 教授	言語学, 英語学
大嶋 秀樹 准教授	英語教育, 心理言語学
田村 幸誠 准教授	認知言語学・機能類型論による英語構文の研究
林 直生 准教授	アメリカ文学・アメリカ文化研究
中村秩祥子 特任講師	英語教育に関する研究

### (5) 最近の修士論文題目一覧

#### ■ 学校教育専修

- ・ 谷昌恒の教育実践とその思想的基盤に関する考察
  - － 児童自立支援施設における教育のあり方への示唆を求めて－
- ・ 大学・学部選択動機と大学への適応感の関連
  - － 選択の自律性と大学の教育環境認知にも着目して－
- ・ 学習者の主体性を育てる教師の指導性－田尻悟郎の英語科教育実践の分析を通して－
- ・ 中学校生徒指導主事の職能と研修についての考察
- ・ 戦後の学校教育における子ども像の変容について
  - － 国語教材における子ども像を手がかりにして－
- ・ 別室指導の機能に関する考察－教師の「別室指導＝脱学校化」観を問う－
- ・ 子どもと子どもがつながる「話し合い」道徳授業の構想
  - － 心理的アプローチと社会的アプローチの統合モデルをめざして－
- ・ 中学生の教師に対する信頼感について－教師の関わり方に重点を置いて－
- ・ プロジェクト型授業の構築と実践－集団の中で自律する力を育てる－
- ・ 学業的援助要請行動におよぼす自己決定と自己調整方略の影響
  - － 中国と日本の中学生を対象として－
- ・ 中国における教員評価制度の現状と課題－教員インタビュー調査の結果から－

## ■ 環境教育専修

- ・小学生を対象としたエネルギー環境教育の教材開発
- ・小学校における学校ビオトープを活用した環境学習プログラムの提案
- ・小学校5年生の環境配慮行動や自然への興味関心に関する研究  
—自然体験との関連性を視野に入れて—
- ・中国の小学校におけるゴミ問題に焦点をあてた環境学習プログラムの開発  
—済南市燕柳小学校における実践—
- ・水温と電気伝導度を指標とした瀬田川の水質変動
- ・商業高校生の環境学習の自覚とその効果に関する実態調査
- ・中国内モンゴルにおけるエネルギー環境教育の実践
- ・中国・東北地域の都市大気汚染の現状と特徴—中学生向け環境学習のための教材化—
- ・Trends of Environmental Education Programs and Activities within Japanese Ramsar Sites:A Special Attention towards Bird Focused Centers and CEPA Standards

## ■ 情報教育専修

- ・情報化社会における道化の役割—マクルーハン「芸術家」概念を手がかりに—
- ・新しい情報科教育を指向したカリキュラム開発に関する研究  
—メディア研究・情報学研究をベースにして—
- ・小学校中学年を対象とした情報安全学習 Web 教材の開発と評価
- ・小学校校庭における野外学習の普及と衛星画像の活用  
—教師のための野鳥観察マニュアルの作成—
- ・VOD 対応ティーチング・ポートフォリオを活用した授業改善支援システムの開発と評価
- ・緑茶とアオバナに含まれる物質の抗酸化作用に関する理論的研究
- ・画像の色彩情報に基づく対話型作曲システム MUSCAT のオンラインシステム化に関する研究
- ・認知・協調的 e-Learning 環境 CoCoLo に関する研究
- ・複雑ネットワークにおける経路学習問題に関する研究
- ・情報学教育における協働学習支援環境の構築に関する研究
- ・仮想空間における個人の匿名性に関する基礎的研究
- ・持ち出し禁止データの校外からの安全利用法に関する一考察
- ・中国人を対象とした動画付きの礼儀正しい日本語会話 Web 教材の開発研究

## ■ 障害児教育専修

- ・タイの障害児教育におけるインクルージョンに関する研究
- ・就学前期の軽度発達障害に関する心理学的評価と小学校での課題
- ・発達年齢 3, 4 歳頃の成人期知的障害者における労働と生活認識について
- ・1次元可逆操作獲得期の道具的活動における意図理解と主体的関与に関する発達の研究
- ・自閉症スペクトラム児の 4 コママンガと小説の表現内容の変化とその検討
- ・アスペルガー症候群と診断された児童の算数指導
- ・小学 2 年生における書き言葉の発達の研究
- ・ベトナム・ハノイにおける知的障害児の早期療育に関する研究  
—知的障害児早期療育施設の事例検討を通して—
- ・「軽度発達障害」の早期発見・早期支援における保健師の役割と専門性
- ・ことばの教室における軽度発達障害幼児と保護者への支援に関する研究
- ・自閉症スペクトラム児の自己理解の特徴と自己肯定感を育てる支援

## ■ 国語教育専修

- ・語られる身体にできること—「聞くこと」の学びの生成—
- ・中学校書写教育に関する一考察
- ・史的考察による国語単元学習の検証と展望

- ・古典語の従属節についての研究
- ・中学校における話しことば指導の研究
- ・本阿弥光悦の文芸理念とその継承について
- ・高等学校を中心とした古典教育の一考察
- ・「活用力」の観点からみた「読解力」に関する研究—小学校国語科における説明的文章を中心に—
- ・楽しく学習できる漢字語彙の効果的な指導方法—タイの大学生の日本語学習者を対象として—
- ・国語科における話し合い活動の研究—ディベートの意義と課題を中心に—
- ・高等学校古典教育における地域教材の意義
- ・現代文学作品を用いた敬語の学習材の開発—中国の大学における日本語学習者を対象として—
- ・日下部鳴鶴の書風形成—楊守敬および貫名菘翁からの影響—

#### ■ 社会科教育専修

- ・初等・中等学校における韓国の経済教育—日韓の比較研究—
- ・タイ・アユタヤの市街地における市場（タラート）の構造
- ・16世紀対馬の内政と外交
- ・中国東北地方における朝鮮人の民族教育
- ・小学校中学年「開発」単元に関する研究
- ・小学校社会科における多文化共生のための教材開発
- ・外国人児童生徒に対する教育支援
- ・彦根における住民主体のまちづくりの研究
- ・日本中世における職能民の実像
- ・高校における歴史授業の改善—加藤公明実践の検討—

#### ■ 数学教育専修

- ・発展的な学習における既習知識の活用を促す能力についての研究
- ・日本とイングランドの算数・数学教育の比較と授業への提案
- ・コンピュータを学習の道具として利用した数学指導についての研究
- ・子どもの理解状況を捉える調査問題作成の視点
- ・整数の概念の拡張とその不定方程式の解放への応用について
- ・数学的コミュニケーションレベルの枠組みの構築とその利用
- ・特殊な平面曲線に関する研究
- ・算数・数学の理解を深めるつまずきの活用—理解の深化モデルの構築を通して—
- ・代数的・解析的側面からみた楕円曲線の理論と暗号・数論への応用
- ・様々な曲線と曲面の性質に関する研究

#### ■ 理科教育専修

- ・びわ湖における沿岸ジェット流の実態
- ・IH ヒーターの加熱原理—流布されている誤解の訂正—
- ・中学校理科における語句つながりとスモールワールド性
- ・発展的なプランクトン学習の企画，検討とそこで用いる映像教材の製作
- ・田上花崗岩体中苦鉄質包有岩の岩石学的・鉱物学的解析
- ・体験・応用との関連を重視した理科授業の実践的研究
- ・演繹的推論を重視した理科授業の実践的研究
- ・オオヒラタケのマイコグリコリピドにおけるヒラタケ属共通の多分岐型糖鎖構造
- ・DNA を中心とした中学生のための生命科学教材の開発
- ・理科授業における実験に関する研究
- ・太陽フレアに伴う X 線プラズマ放出現象の研究
- ・蛍光光度法による瀬田川水中の溶存アルミニウムの分析法に関する研究

## ■ 音楽教育専修

- ・障害児教育における音楽教育の課題と展望
  - －音楽療法の理念とアプローチを応用した授業の提案と実践－
- ・音律の変遷とピアノの調律について
- ・演奏家育成のためのヴァイオリンの教授法－学習者と教師の観点から－
- ・もの派から学ぶ“作品のあり方”の可能性
- ・淡路人形浄瑠璃の伝承システムにみる教育の役割
  - －地域の学校や子ども会活動における郷土芸能の伝承と発展－
- ・エチュードの原点－クレメンティの教本を考察して－
- ・ベートーヴェンのピアノソナタ
  - －フォルテピアノとモダンピアノから考えられる演奏の可能性について－
- ・G.Faure の作品における教会技法について
- ・ドイツロマン派の歌曲について－その詩と音楽－
- ・学校音楽教育における地域との連携に関する研究
  - －音楽家との新たなコラボレーション授業の開発を中心として－
- ・日本における 1980 年代以降の若者の生活とポピュラー音楽
- ・リヒャルト・ワーグナーの音楽について－その楽劇における管弦楽の使用についての研究－
- ・現代のカストラートーヘヴィメタル歌手の可能性とジャンルを超えた先にあるもの－
- ・声の可能性を探る－声優・モノマネ芸人に学ぶ－

## ■ 美術教育専修

- ・生徒の能動性を生かす美術教育の研究－『石山寺縁起絵巻を読む』の実践より－
- ・妖怪画論－見えざるものの視覚化における－考察－
- ・「オタク系文化」と美術教育
- ・子どものデザイン学習における相互行為と授業分析による実証的研究
- ・京都西陣の地域カラー人々のくらしとつながりの視点から－
- ・アーサー・ラッカムの挿絵研究－カラー印刷黎明期と‘Rackhamerie’をめぐる考察－
- ・多様なアイデンティティーに開かれた思春期の美術教育－不登校からの視点－
- ・子どもの世界を待つことについて
- ・日中の中学校美術教科書における鑑賞作品の比較研究
- ・生徒が主体的に取り組む美術鑑賞学習の研究
- ・〈見えるもの〉を支える絵画について
- ・妖精を求める時代
  - －英国ヴィクトリア朝における妖精の流行と現代ファンタジーブームとの比較考察－
- ・図工のカラーその本質と意義－
- ・図画工作科の充実をめざして－子ども理解と関係性を重視した指導のあり方について－
- ・乱世の美－当世兎にみる世界観・メンタリティ・美意識－

## ■ 保健体育専修

- ・中国における武術教育に関する研究－中日の比較を中心に－
- ・高校野球選手における投球および打撃能力と新体力テストとの関係
  - －オフシーズンのトレーニングによる身体能力の変化－
- ・高等学校における睡眠学習教材の開発－保健体育科の実践による有効性の検討－
- ・初心者に向けた棒高跳指導の提案－小・中学生を対象とした実践例から－
- ・乗馬における基礎的研究
- ・部活動の在り方と今後の方向性－滋賀県における中学生サッカーの現状－
- ・中学校柔道授業における教師行動に関する事例的研究
  - －生徒の形成的授業評価との関係から－
- ・小学校体育科における体づくり運動領域の「多様な動きをつくる運動」に関する実践的研究

- ・小学校体育授業における教師の反省的思考に関する実践研究  
－アクション・リサーチの取り組みから見えてきたもの－

#### ■ 技術教育専修

- ・知識基盤社会における技術分野の学習内容の体系化に関する研究
- ・情報技術教育における自己教育力の向上をめざした教育方法の開発
- ・統計的方法を用いた流れ中における繊維の配向の数値解析
- ・繊維懸濁液の流れ中における繊維の配向の数値解析
- ・将来に生かせる技術観を育む学習に関する基礎的研究－技術とものづくり学習を通して－
- ・音響センサーによる土砂移動の検知及び動態推定に関する研究
- ・児童期における栽培体験活動の実践およびシステムに関する研究
- ・情報教育カリキュラムの開発に関する研究
- ・全国の養護学校等における農園芸活動の実態調査とその効果に関する研究
- ・公民館が行う地域教育と専門知識を有する指導員に関する研究
- ・これからの学校教育における情報教育の充実

#### ■ 家政教育専修

- ・中学校技術・家庭科「家庭生活」領域の学習指導に関する研究
- ・琵琶湖産スジエビを用いた魚醬作り
- ・小学校家庭科における「家族」の学習指導に関する研究
- ・米タンパク質の食品開発と教材化
- ・食事摂取量認識に関する研究－うつわに焦点をあてて－
- ・地域を組み込んだ技術・家庭科における授業開発
- ・小学校家庭科における栄養学習プログラムの開発
- ・滋賀県の伝統的住宅における妻入り・平入りの分布と風土の関係
- ・住宅管理行為と住意識の地域特性に関する考察と教材開発  
－滋賀県における住生活と風土との関わり－
- ・中国・日本・韓国における食意識と食育
- ・絹ちりめん布の風合い特性に関する研究
- ・教科間のつながりを重視した減災教育の可能性とカリキュラムの提案

#### ■ 英語教育専修

- ・ Meanings of Prepositional Verb Construction and Accusative Verb Construction
- ・ Metaphorical Extension of Word Meanings
- ・ Lovesickness : A Search for Love and Self in Edna O'Briens Novels
- ・ A Study of *Where Angels Fear to Tread* : Encounter with the Different Culture
- ・『源氏物語』英訳研究－「物の怪」はどう伝えられたか－
- ・ Improving English Perception Skills by Double-speed Listening
- ・中学校における英語音読指導に関する研究
- ・日英語における事態の認知過程モデルと概言表現の特徴
- ・多読及び音読とコミュニケーション能力の関係について－明治期の英語の達人の検証から－
- ・言語意識を高める小学校外国語活動
- ・Honesty/Integrity と誠実－文化的類似性概念の体現化による分離から見る差異－
- ・『ブライトン・ロック』試論－ピンキーの反逆とその意味－
- ・ Spatial and Time Schematic Mechanisms between Correspond Verbs and Their Prepositional Phrases

## 7. 教育学研究科における教育方法等

### (1) 教育, 研究指導

- ① 大学院修士課程における教育は、専攻に応じ、教育上必要なものとして開設する授業科目の履修及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」とする）によって行われます。
- ② 学位論文及び修学その他学生生活上の指導・助言を行うために指導教員が配置されています。

### (2) 授 業

#### ① 学期（授業期間）

学期は春学期（4月1日から9月30日）と秋学期（10月1日から翌年3月31日）の2学期に区分されています。

#### ② 授業時間帯

昼夜間開講制により、教育学研究科の授業時間帯は原則として、第1時限（8:50～10:20）から第7時限（19:40～21:10）までとし、現職教員等を含む学生の修学が容易になるように措置されています。また、土曜日に授業を開講するとともに、土曜日・日曜日や夏季・冬季休業期間等に集中授業を開講することにより、現職教員等の学生の修学が容易になるよう、時間割の流動的な編成を行っています。

各時限の授業の開始時刻及び終了時刻は、次のとおりです。

第1時限	8時50分～10時20分
第2時限	10時30分～12時00分
第3時限	12時50分～14時20分
第4時限	14時30分～16時00分
第5時限	16時10分～17時40分
第6時限	18時00分～19時30分
第7時限	19時40分～21時10分

#### ③ 修学方法

開講授業科目表の年次配当に基づき、授業科目の中から、30単位以上を修得します。

ただし、現職教員等に対しては、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を適用し、現職教員等が高等教育を受ける機会を拡大するための措置を実施しています。

教育方法の特例措置の実施方法は次のとおりです。

##### ア. 現職派遣教員

修学年限のうち、第1年次は現職を離れて通常の昼間時間帯の履修を原則とし、課程修了に必要な30単位のうち24単位以上を修得するものとします。

第2年次は現職に復帰し、勤務しながら定期的あるいは集中的に授業・研究指導を受けて、単位を修得するとともに、学位論文を作成します。

イ. 大学院修学休業制度（公立学校の教員が、任命権者の許可を受けて、専修免許状を取得するため、国内外の大学院へ在学し、その課程を履修するため休業することができる制度）による派遣教員

昼間時間帯の履修を原則とします。

##### ウ. 派遣教員以外の現職教員, 社会人等

修了年限の全期間を通じて、平日の夜間または土曜日を中心に、定期的あるいは集中的に授業及び研究指導を受けることができます。

### (3) 修了の要件

- ① 研究科に2年以上在学し、各専修で定められた授業科目30単位以上を取得し、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格すること。
- ② 学位論文は、各専修に関する主題で、学校教育、障害児教育ないし教科教育の進展に寄与できる内容を有する学術論文であること。

### (4) 修業年限

修業年限は2年とします。在学期間は4年をこえることができません。

### (5) 学位の授与

大学院修士課程を修了した者に対しては、修士（教育学）の学位が授与されます。

## 8. 大学院説明会

- 日 時： 第1回 平成23年7月2日（土）14:30～16:30  
第2回 平成23年7月30日（土）14:30～16:00  
第3回 平成23年9月3日（土）14:30～16:30

場 所： 第1回・第3回

滋賀大学大津サテライトプラザ

大津市春日町1-5 アルプラザ大津内

（JR大津駅前 平和堂アルプラザ大津5階）

第2回

滋賀大学教育学部（オープンキャンパスとして大学で行います。）

対 象： 関心のある方。どなたでも歓迎します。

- 内 容： 1. 教育学研究科（修士課程）の概要  
2. 入学者選抜方法について  
3. 修学方法  
4. 個別相談

申 込： 参加希望者は、事前に、電話又はファックスにて入学試験係までお知らせください。  
当日参加も可能です。

連絡先： 滋賀大学大学院教育学研究科入学試験係

〒520-0862 大津市平津二丁目5番1号

電 話 077 (537) 7711

F A X 077 (537) 7840

## 9. その他

### (1) 教育学研究科に関する問い合わせ先及び学生募集要項請求先

〒520-0862 大津市平津二丁目5番1号

滋賀大学大学院教育学研究科入学試験係

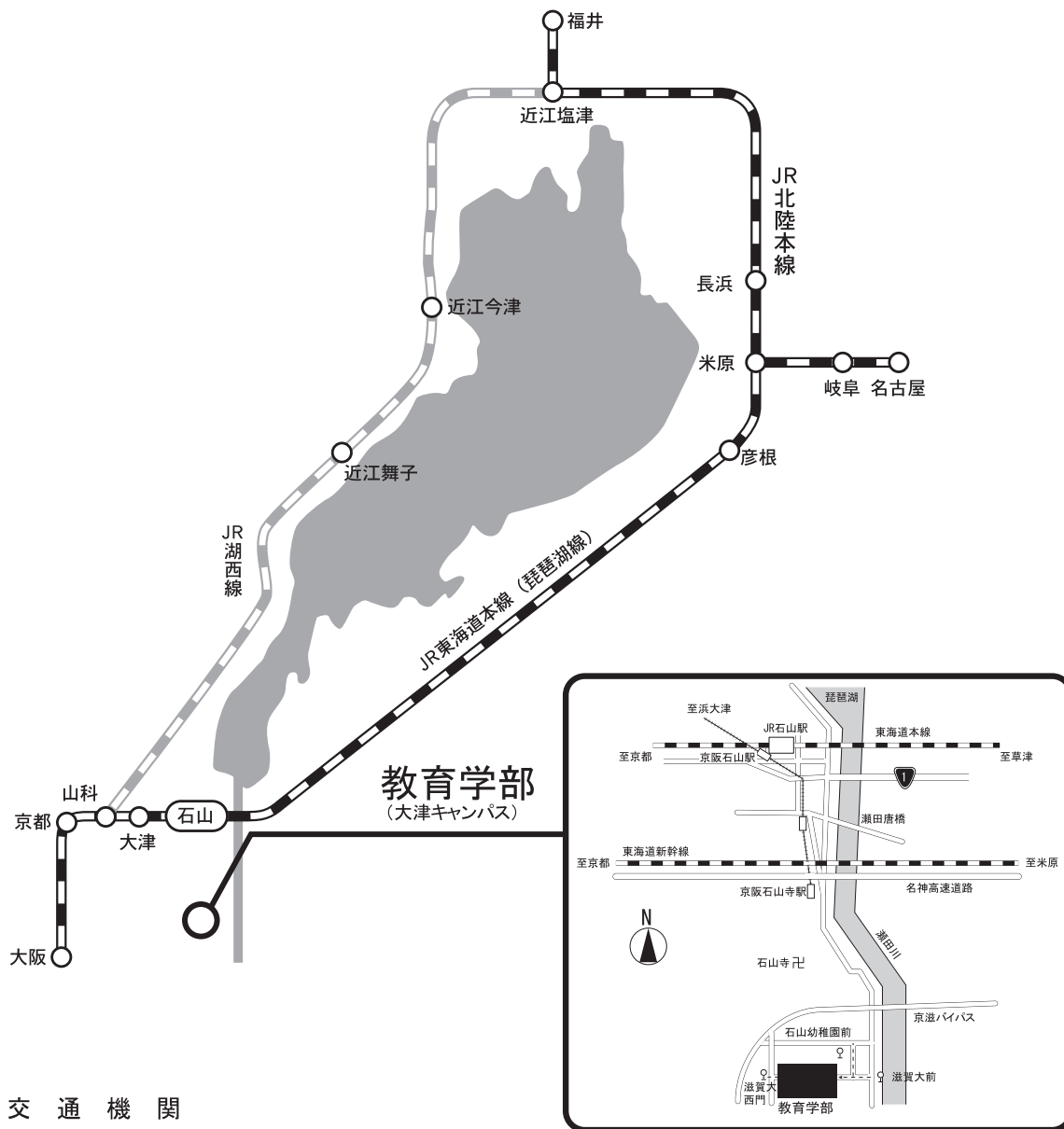
電話 077 (537) 7711

### (2) 入試情報ホームページ

<http://welcome.biwako.shiga-u.ac.jp/>

### (3) キャンパスの案内

大津市平津二丁目5番1号



#### 交通機関

##### 「JR石山駅」下車

\* 「JR石山駅」は東海道本線（琵琶湖線）です。誤って湖西線に乗らないよう注意してください。

- 京阪バス\* 約15分「滋賀大前」下車，徒歩約8分
- 京阪バス\*\* 約15分「滋賀大西門」下車，すぐ
- 京阪バス\*\*\* 約15分「石山幼稚園前」下車，徒歩約10分

##### 「京阪石山寺駅」下車

- 京阪バス\* 約5分「滋賀大前」下車，徒歩約8分
- 京阪バス\*\* 約5分「滋賀大西門」下車，すぐ
- 京阪バス\*\*\* 約5分「石山幼稚園前」下車，徒歩約10分

- \* [2] 新浜，[4] 大石 行き
- \*\* [52] 南郷中学校・新浜（石山寺・滋賀大西門経由），  
[52][53] 南郷二丁目東（石山寺・滋賀大西門経由）行き
- \*\*\* [1] 石山団地（石山寺経由）行き